



お仏壇

お仏像

葬儀のことについて前回は「墓」のことを書きました。今回は「お仏壇」のことを考えてみたいと思います。

出 会 い の 場 所

「家」という字は「入」（屋根の）下に「水」（めすの豚）のいることを示しています。漢字をつくった昔の中国の人たちも、家というものは、よく肥えた女房が、どつしりと居座つていてこそ安泰だと考えていたのでしょう。なんと、家も女房が守る台所、家計が一つの中心です。

従つて昔の人たちは、イエには二つの中心があると考へていたようです。一つは「家」の字で示される台所（経済）です。そしていま一つは「屋」の字の示す「心身を養う場所」です。このごろの新しい家は、家中台所といった感じのものまであります。便利、経済的ということだけが優先されています。ペットなが、ゴロのんでトーストかじるのだそうです。本を読み音楽演奏するのも炊事のおおりの中。そしてそこからタイマーやリモコンでお炊事できるのです。便利、便利。生活が台所で、台所が生活なのです。

しかしこのようなくらしのなかで今の人たちは「経済人間」、「便利人間」になつてしまつて、経済のなかば便利さのなかに、かえつて大事な「自分自身」を見失はなつていくのではないでしようか。「お仏壇」というところは「出会ひの場所」です。ともすれば見失ないがちな私らしみしみ出会ひの場所です。私のいのちの大きなゆたかな根源との出会ひをもつこともできる場所です。如来さまの本願力私にくらしのなかに出会ひをわさしていただく場所が、私の家の「お仏壇」です。

お 仏 像

「お仏壇」には、お仏像が納められてあります。それはもともと、お釈迦さまがいらつしやる時代には仏像がつくられはじめたのは、お釈迦さまが亡くなつて五〇〇年も立つてからのことでした。それはなぜでしようか。

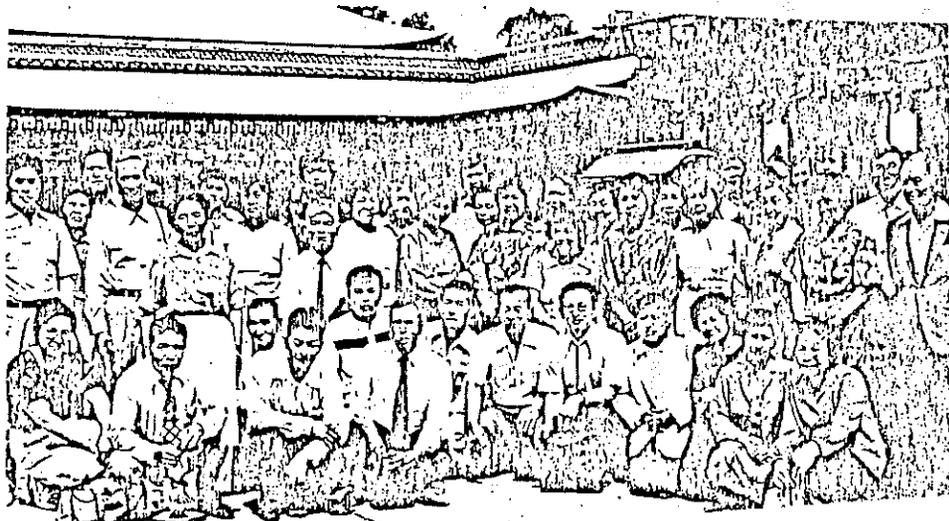
お釈迦さまのお声が直接耳に聞こえていたときは安心です。たといお亡くなりになつてもしばらくの間は、思い出があつたりしてその中でお出会ひすることもできました。だが、だんだん遠くへだたつてしまふと、かすかな思い出や言い伝だけではお出会ひすることができにくくなります。時がへだたればへだたるほどつかしいのに、私の心の中にはその印象はうすれていつてしまひます。なんと、お出会ひしたい。お出会ひする手がかかり、よすががはと思ふ心で仏像がつくられたのです。親を亡くしたしばらくはそれでも思い出せましよう。時が立ち年がたつてみて、だんだん親の真実が思われるようになると、あらためて親をしのび、親にせめてお礼申したい気持ちになるのと同じでしよう。

すでに親から遠くへだたつたいま、ここにこうして生きていく私だけ、このいのち、あの親によつて産み出され、いのちをかけてはぐくまれてその親の心は、いまもなお私のいのちをよびつけていてくれます。お釈迦さまが説かれた真理は、お釈迦さまが亡くなつた今も、この私のいのちに、はたらきつづけています。しかし私には、なかなか真理は見えない。私にはなかなか親の願いが聞えてこない。こんなせわしく浅ましいくらしのなかからでも、せめてわすれずかでも如来の真実に生きさせてもらう手がかりはないものか。せめて親の慈悲に届らしてもらうよすがはないものか。そんな心のなからつくられたものが仏像です。

「そんなものはただの木や金属で作つた偶像にしかすぎないのだ」と言つてゐる人がありますが、あなたはどうか思われるでしようか。

私がかこにこう生きてゐるのは、はかり知れない大きな如来のいのちのはたらきに支えられてあ

るのです。その、私のいのちの根源、如来のいのちに帰つて生きるよろこびを「信心」といい、そこに気づかせるために、聞こえて下さるのが「南無阿彌陀仏」のおよび声であり、わが家の中まで踏み入つて私のいのちに迫つてくださるのがわが家のお仏像です。このように仏像のいらつしやる「お仏壇」は、真実の私に、真実の私のいのちに、如来のいのちに「出会ひ場所」です。



（ 耕三寺にて 研修旅行団 ）

研修旅行を終えて

御 礼

「今年はじめに参加しましたが、とにかく楽しい旅行でした。」とよろこんでくださいました。「いろいろな旅行にも連れて行ってもらいましたが、今度の旅行ぐらゐり気楽な旅行がたい旅行はありませんでした。」とお礼を言つてくださいました。

「仏社の若い人が、まあほんとに昼も夜も献身的にお世話をして下さいました。もつたないないことと思ひ通した楽しい二日間でした。」感謝されて仏社役員いささかテレました。若い十代の人から八十近いお年よりまで、但東町の人も八鹿の方も、いろいろな方々の参加で感じた、不思議と全部があなたにかいものか包まれたことでした。これが寺といふか、お念仏といふか、そんなものなかなかに出会ひといふものかなとお世話がけり届きませんでしたことをおわびします。

仏社社長 亀井 孝  
仏社会長 宮島 美重子

旅行に参加していただいた上、六月十二日（土）、その方々で屋根工事あとの清掃作業を率仕していただきました。本堂内から境内の土もりまで、ほんとに心をこめてきれいにして下さいました。重ね重ねのご好意に、心から感謝申し上げております。ほんとに有難うございませ

住 職